



# Yonago East Weekly

「自分にチャレンジ! 自分に奉仕! そして、ロータリーを楽しもう!」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/小谷維夫 ●幹事/永島清孝 ●会報/足立博俊

会員数85名

## 今週のお祝い

出席100%祝: 2年 牛込淳彦君  
15年 伊藤慎哉君

## 会長挨拶

暖かくなってまいりまして、自動車のタイヤを普通タイヤに換えられた方もいらっしゃるのではないかと思います。愈々春になったのかなと思います。

3月2日、米子松蔭高等学校の卒業式に行ってみました。その時の様子をお話して挨拶に代えようと思います。校歌が始まります。卒業生は最後の校歌斉唱と言う事で皆思うところがあったのではないのでしょうか。続いて学校長の式辞、その後が理事長の告示ですが卒業生に対して非常に具体的な話でありました。それは卒業生のこれからの「心の持ち方」という事で「ミッション・パッション・ハイテンション」。ミッションは進学する人も就職する人も自分の目標・任務・使命を明確に持つことが大切であると言う事。それを全うするためにパッション、つまり情熱を持ちなさい。更に具体的に実行するためには頭一杯に熟慮する、つまりハイテンションになる事が重要である。そしてこの事を常に考えなさい。と言う内容でした。この1年間、何か若者に対しての相当な計り知れぬ苦勞があったのでなかりかと推察しております。

来賓の祝辞は松蔭高校の前身、米子商業高校の卒業生、ファミリー株式会社の稲田社長がされました。高校卒業して簿記の技術をもって大阪に渡って、誰にも負けない仕事をして、20代で独立して今の会社を興したと言う話の中で、「正しく努力する事の大切さ」が訴えられておりました。自分のミッションの理解が不足していると努力しても実が生らないものです。自分のミッションを明確に理解した上で正しく努力する事が成功への道だと言う事を稲田社長が言われたんじゃないかなと思います。

また、在校生の送辞の中で「今は不安・混迷の時

代である」と言う言葉が出ておりました。まさに時代を反映していると思います。卒業生の答辞には「先生、両親、クラスメイトに感謝」で結びは「ありがとうございました」という言葉でした。同じような荘厳な「式」は入学式がありますがそちらには4月になってからの期待感、楽しいざわめきのような物があります。しかし卒業式には少しの寂しさを伴った緊張感があり、グッと来る物があります。素晴らしい卒業式だったと思います。以上で会長挨拶といたします。

## 幹事報告

1. 3/1米子松蔭高等学校表彰式 荒川(圭)理事出席  
3/2 " 卒業式 小谷会長 出席
2. 3/2~3 PETS 木美会長エレクト出席 (津山国際H)
3. 2/17地区夢計画合同セミナー出席お礼  
(ガバナー・エレクト事務所より)
4. 4/28地区協議会 (津山文化センター他)
5. 4/27~28インターアクト地区協議会  
(倉敷アイビー・スクエア)
6. 5/25~26八尾東RC創立40周年記念野球大会のご案内 (三重県伊賀市)
7. 例会変更のお知らせ  
倉吉中央RC・松江RC 3/20(水)休会(法定休日)

## 次回プログラム

3/13 「婦人交流会 in ソウル報告」

赤山俊寛会員

「今後の不動産活用(4つ)の選択肢」

赤山俊寛会員

3/20 休会(法定休日)

3/27 「学友会の活動とこれからの展望」

RI第2690地区 学友会会長 梁栄友 氏



Peace Through service

奉仕を通じて平和を

## < プログラム >

### 「ロータリーの友」の紹介 北沢薫雑誌委員会リーダー



3月は「識字率向上月間」  
そして3月11日～17日は「世界ローターアクト週間」

RI会長メッセージ「青少年交換が平和を築く」

- ・ロータリーの青少年交換プログラムは40年以上継続し、第5奉仕部門「新世代奉仕」の一部となっている。この部門にはインターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者養成プログラムなどのプログラムのほか、30歳までの若者を対象としたクラブや地区の活動が含まれます。・・・

世界ローターアクト週間

- ・地域とともにローターアクト  
日本各地のローターアクターの活動報告

歴史の目撃者たち

- ・高齢者と時間を共にするウクライナ・キエフのローターアクター（写真）

2013－2014年度国際ロータリー会長RON BURTON

- ・ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を（2013年国際協議会レポート）

日本人のこころと平和

- ・国家と文明を担う叡智、勇気そして誇り  
冷戦が終結した時に  
日本文明の本質は「心の中にある神」すなわち「誠の心」  
「平和」とは「正義」とは何でしょう

### 「私の職業」

南葉健一 会員



皆さんこんにちは、南葉でございます。1月9日の入会で未だ2ヶ月ですが、杉本プログラムリーダーから「私の職業」というテーマで10分程度話をしてくれという事でした。なにぶん私の職業は鉄道員でございます。皆様のお役に立てるような話は出来ませんし、硬い話になるかもしれませんが僅かばかりお耳を拝借できればと考えております。

思い起こせば今から26年前に日本国有鉄道が倒産いたしまして、全国6つの株式会社に分割され且つ民営化され再生スタートし、今年の4月1日で丁度26年になります。私は昭和50年に国鉄に入社いたしました。小学校1年生の時の夢は「僕は大きくなったら鉄道に入って車掌になりたい。」でした。「出来れば退職する頃には地元の「江尾」の駅長位はしたいな」と思いながら鉄道を目指したわけです。昭和50年という年はスト権ストと言う事で国鉄労働組合が8日間も全国の列車を止めた年でございます。私はその時に入社いたしましたが全国27の鉄道管理局の中の米子鉄道管理局採用となりました。当時国鉄の労働組合員が4500人位を擁する大組織でした。私は鉄道が好きでしたので、どうしてこんなストライキなんかするんだと殴り合いの喧嘩まではしませんでした。なんとか国鉄を再建しよう、改革しようとして12年間仕事をしました。念願の車掌も3年目には果たしえまして、浜田と米子の車掌区で10年間勤めました。...この調子ですと終わりませんので、ここからは米子駅を中心とした鉄道の歴史を少しお話ししたいと思います。

西日本旅客鉄道株式会社は北は北陸から南は九州福岡まで2府16県を擁する旅客会社であります。金沢・京都・大阪・神戸・和歌山・福知山・岡山・広島・福岡そして米子の10の支社に分かれています。米子支社は現在1600人位の社員で鳥取から益田まで300kmを超える非常に長いエリアで業務

しております。国鉄最後の年は米子鉄道管理局には5200人位職員が居りましたが、一夜にして3700人になりました。ですからこの26年間では2000人を超える社員が居なくなりました。一方でいろんな業務を関連会社に委託していますからグループ会社を含めれば4000人近くになります。

駅は鳥取島根合わせて154あるのですが、社員が居る駅になりますとたった18しかありません。グループ会社に委託している駅が14ありまして、合わせて32駅ですから8割を超える駅が無人駅という事になります。私は米子駅長であると同時に米子管理駅長と言う事で、伯備線は上石見まで山陰本線は中山口まで、境線全線を加えて33駅扱っておりますが社員を配置している18駅の中の4駅がこの米子管理局のエリアにあります。米子・伯耆大山・根雨・境港しか社員を配置しておりません。その意味では日々ご利用戴いておるお客様にも大変ご迷惑をお掛けしておるのでないかと思っております。

米子駅は今一日当たり7400人のお客様に乗り降りしていただいております。売り上げは1日当たり620万円で、JR発足の頃は1000万円位あったのがかなりご利用が減りまして厳しい状況が続いております。米子駅が開業したのは国鉄以前の官民鉄道の頃ですが1902年(明治35年)11月1日です。今年の11月で111歳と言う事で皇寿の年になります。私は西日本鉄道になって12代目の駅長で通算すると48代目の駅長になります。明治初期の山陰地方は、関西経済圏の中で日本海沿岸地方と大阪市場を結ぶ新しい交通機関をどのような形で設定するのと言うのが大きな課題であったと聞いております。明治22年に全国の鉄道建設ブームに乗った形で山陰地方においても建設計画が立てられました。当時は岡山から津山、津山から倉吉、倉吉から米子と境というルートがあったようですが、もう一つ、倉敷または玉島から米子を経て境というルートもあったようです。最終的には明治35年の5月に境・米子間の実測の着手をもって山陰鉄道の建設が事実上スタートしたわけでありまして。境から米子経由御来屋までが開業したのが110年前と言うことです。それ以前も境線は私設鉄道として誕生しようという動きがあったようでして、灘町に中国鉄道株式会社が設置されて境・米子間の測量を開始して用地買収も済み、民家の立ち退きも完了して開業する予定であったようですが、明治33年に官設鉄道として買収されて今日に至ったというようです。

なぜ米子・境港が最初であったのかという事が疑問なのですが、当時山陰で中央部に位置し、境港と米子港という二つの港が船便の玄関口となる土地柄が問題だったのかなと思います。昨年11月に米子市観光協会の皆さんと110周年を祝うイベントをさせて頂いたんですが、その時に、なぜ山陰で御来屋・境間が一番最初に開通したのかと若い社員が質問攻めにあっております、私から只今申し上げたような文献に書いて有るような事を申し上げたのですが、「駅長、それは違うぞ」と言われました。つまり、大山町の富長(旧名和町富長)に軍馬の供給地があって、富長で育てた軍馬を御来屋から貨車に載せて境港まで運び、そこから船で大陸に運ぶ目的の為だったのだそうです。以前NHKで「坂の上の雲」で騎兵がロシアのコサック兵を破った事からすればそれも事実かなと思った次第であります。御来屋の駅舎につきましては開業当時110年前の物が現存しております。10年前の100周年の時に少し改修いたしまして、御来屋市(いち)と言う事で大山町にお譲りしてご利用いただいております。駅の中に入ってみますと当時の駅舎の雰囲気荷物置き台などに有るような気がします。御来屋は後醍醐天皇に所縁の深い土地でありますから歩いて散策する企画を大山町さんとしていただいております。

米子駅前に蒸気機関車の動輪と客車の車輪のモニュメントがあり、その脇に赤茶色の「山陰鉄道発祥の碑」が立っております。境線馬場崎町の200m境寄りが110年前に境駅の駅舎があったところでして、そこにも同じ碑が立っておりますのでお時間がありましたら見てやってください。また、鉄道創設の頃のレールを使って柱にしているところがございます。イギリスから運ばれてきたレールですが、上下が同じ形をしまして上が磨耗すればひっくり返して使う発想だったようですが、実際には安定感が悪くてそれは出来なかったようです。その使えなくなったレールが流れ流れて米子にやって来まして、ホームの上屋を建てる柱になっております。表が駄目になったらひっくり返して裏を使う、それでも駄目になったら建築資材として使うというリサイクルの走りだったようです。いろいろ申し上げましたが、米子市の玄関口として米子市の地域振興や観光の活性化のお役に立てればと思っております。今後とも宜しくお願いします。ありがとうございました。

#### 今後の行事予定

3/13 第4回家庭集会

(芭蕉庵 角盤町店)

3/20 休会(法定休日)

4/14 IM(倉吉未来中心)

4/28 地区協議会

(津山文化センター他)